

### 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：東日本大震災にて被災した湿地帯の再生		
水系/河川名：津谷川水系/津谷川(外尾川)	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：107.1km <sup>2</sup>	整備計画流量：800m <sup>3</sup> /s(W=1/30)	セグメント：2-2
事業：災害復旧	事業開始年度	平成23年度
目標設定：定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、湿地、ヨシ原の保全・再生・創出		
工法(主な)：築堤、護岸整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、委員会、協議会等の開催		

#### 背景・課題、目標設定

##### 【背景・課題】

津谷川は河口部に湿地が形成されるなど、自然豊かで様々な生物の生息環境が形成されていた。しかし、東日本大震災により発生した津波により壊滅的な被害を受け、河川環境も大きな変化があった。災害復旧工事を進めるにあたり、河口部の湿地帯は回復し、震災後の河川環境を適切に把握するため環境調査を実施したところ、湿地帯の周辺にも希少種の底生生物、植物が生息していることが判明した。

##### 【主な希少種】

災害復旧工事は被災原因を踏まえ、堤防高さをL1堤で設定し、構造については粘り強い構造を採用している。このため、工事による環境の変化が増大し、河口部の湿地帯の希少種に直接影響を受けることが懸念されたため、保全対策について検討した。

##### 【目標】

L1堤の工事による環境の変化から、希少種の生息する湿地帯を守る。



アカテガニ



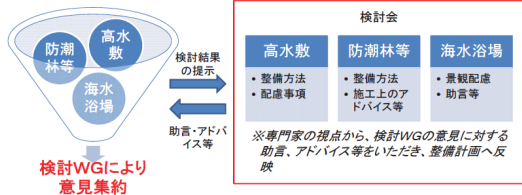
ウミミドリ

#### 取り組み内容・対策例

景観・環境などへの配慮について検討するよう要望があったことから、これらの要望事項について出来るだけ地元の意見を取り入れながら、よりよいものを作るという観点から、以下の検討を行った。

- ・地元住民が主体となる「検討ワーキング」の設置
- ・専門的な評価を行うため有識者・地元住民から構成される「中島海岸及び津谷川災害復旧事業に関する検討会」の設置

#### 【検討会の方針】



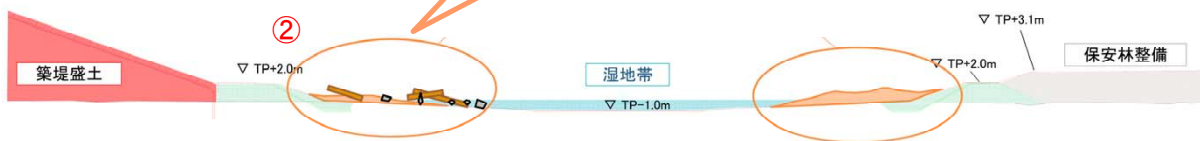
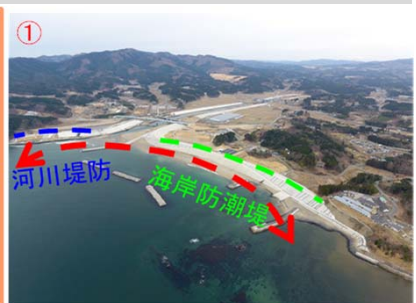
#### 【検討会の実施状況】



#### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

検討会・検討ワーキングにおいて、以下の事項が検討された。

- ①堤防の景観配慮
  - ・海岸と河川が一連の曲線を形成するよう法線を変更
- ②右岸湿地の整備
  - ・環境への配慮のため、右岸にあった湿地の再生(移設)
  - ・岸辺に表土を使って、アンジュレーションをつける
  - ・流木や石等を適宜配置する



#### 備考